

シケリ、此度ノ首尾ハ、醫ノ冥利ニ叶ヒタリ、門弟末々迄モ、此嗜ノ心忘ルベカラズ、迎戒メケル、  
〔醫贖〕中刀圭。

陶氏本草序例云、刀圭者十分方寸ヒ之一、准梧桐子大。中又按千金太乙神明丹方後云、凡言刀圭者、以六粟爲一刀圭、一說云、三小豆爲一刀圭。略下

〔茅窻漫錄〕中刀圭

醫者の用ふる藥匙を刀圭といふ事、和漢とも、詩文章に書く人多し、白樂天が挽茶の詩に、湯添勺水煎魚眼、末下刀圭攪麴塵と作り、蘇東坡が句に、促膝問道要、遂蒙分刀圭といひ、元の林坤が誠齋雜記に、出篋中刀圭藥、滲之悉化爲水と書たれど、其名義しれざりに、王士禛が池北偶談卷二刀圭字常用之、而未確義、碧里雜存云、在京師買得古錯刀三枚、形似今之剃刀、其上一圈如圭璧之形、中一孔即貫索之處、蓋服食家舉刀取藥、僅滿其上之圭、故謂之圭、言其少耳、泉布錯刀皆古錢名といへり。略下

〔皇國名醫傳後編〕中後藤良山略

後藤達略 中惡庸醫任意作劑無定準、造圓ヒ三等、以正分量、世以爲法、

〔兼葭堂雜錄〕二清李勇卿名爲著す普救堂藥方三卷あり、其中に、計粒匙といへる匙の圖あり、匙の舌の所に二十箇の凹穴あり、一匙とりて丸藥をかぞへずして、則二十粒あり、いかさま巧なるものなり、此は甚だ珍書にして、日本の俗用療治調寶記の類の書なり、就中此匙ばかり珍奇といふべし、

〔日本風土記〕四醫用

藥刀骨ク宿スリ

藥箱骨ク宿スリ

藥碾藥健

藥確骨ク宿ス

〔醫心方〕藥斤兩升合法第七